

目的：第1報，第2報において，本学短大家政科入学の動機及び家政科教育への期待についての意識を明らかにした。引き続き今回は，入学の動機，家政科教育への期待，短大のイメージ，利点等について同様の調査を実施し，前回の調査との比較をするとともに，今後の短大家政科教育の改善を目指すことを目的とした。

方法：調査対象は，本学短大家政科1年生 252名で，調査時期は昭和61年6月，調査方法は質問紙を配布し記入後回収した。集計は，外国文献社パスキーⅢ9を用い，各項目の集計，コース別集計を実施した。

結果：短大家政科入学の動機は，第1，第2報と同様の傾向がみられたが，「家政に関する専門的な知識や技術を深く勉強したい」については，今回の調査で前報に比して高い数値を示し，職業的志向がやや強くなってきた傾向がみられた。短大家政科に期待することは「家事技術を中心とした実地的教育を行う」が高い数値を示し，職業に関する期待は，わずかながら増加している。短大のイメージは，専門学校・花嫁学校というイメージを抱いて入学した学生が前回調査よりやや増加した。短大の利点は「就職に有利」が極めて高い数値を示し，「経済的負担が軽い」が前回の調査に比して増加してきた。

以上のことから本学短大家政科の在學生は，短大家政科教育を専門的技術を習得し，それらを活用した就職をするための手段であると意識している傾向が，前回調査よりも増加している。そこで，今後短大家政科のカリキュラム改善時にそのことを反映させ，その実践化を図りたいと考えている。